

特集	阪神・淡路大震災10周年特別企画展スタート	1
	第15回ICAウィーン大会参加・発表	4
	相次ぐ災害に調査チーム派遣	5
	センターの研修事業	6
	夏の企画展を終えて・・・	7

特集

阪神・淡路大震災10周年特別企画展スタート！

阪神・淡路大震災10周年に向け、特別企画展「阪神・淡路大震災から学ぶ あなたは、次の巨大地震にどう備えますか」が人と防災未来センター“防災未来館”で始まりました。（開催期間は来年の3月13日まで。）

同展は、震災10周年を迎えるにあたり、大震災の経験の風化を防ぎ、将来の大地震の被害軽減に貢献するため、東海・東南海・南海地震、首都直下地震等来るべき巨大地震についての情報を紹介するものです。地震に関する正確な知識を身につけてもらい、「自分の命は自分で守る」という意識を持つことの必要性を訴えています。



津波の高さを示すバナー



会場の様子

●津波の高さ

防災未来館の入口から1階ホールに入ると3階までの吹き抜けの空間に真っ黒で巨大なバナーが吊るされています。バナーには東海・東南海・南海地震により想定される津波の高さが記されています。高知で想定される高さは12mで、このバナーよりもまだ高いことを知ると津波の恐ろしさが実感できると思います。

また、防災未来館の写真と津波の高さを組み合わせたパネルを見れば、北海道南西沖地震時の奥尻島での津波の打ち上げ高が防災未来館の6階に匹敵する30メートルの高さであることに誰もが驚くでしょう。

特集

阪神・淡路大震災10周年特別企画展スタート！



「国内外の災害ニュース」の大型映像



津波による浸水域を確認できる大型タッチパネル

家、学校、地下街、高層ビルや商店街など状況別に地震が起きたときの自分の命を守るための役立つ情報の紹介や液状化、耐震構造、長周期地震波の実験により、そのメカニズムを学ぶことができます。自主防災の事例として、神戸市真野地区、和歌山県広川町の取り組みを紹介しています。



会場の様子

●地震の怖さ

地震によって発生した火災、津波、液状化等を写真パネルや「国内外の災害ニュース」の大型映像などで紹介するとともに、直下型地震を引き起こす活断層が、現在、日本では10,000箇所あると考えられていますが、まだ2,000箇所しか見つかっておらず、日本のどこでも地震に対する備えが必要なることを訴えています。

●地震から命を守る

タッチパネル式の大画面が設置され、東海・東南海・南海地震が起きたときに、兵庫県（尼崎市、西宮市、南淡町）、大阪府（大阪市、堺市、高石市、泉大津市）、和歌山県（串本町、御坊市、広川市、田辺市、湯浅市）、高知県（高知市、須崎市）などで津波によって浸水する地域を衛星写真で確認することができます。また、主要市町村の津波災害等のハザードマップが閲覧できます。



耐震構造・免震装置実験

「地震から命を守る」コーナーのまとめとして、「河田センター長の館内授業『津波～より早く、高いところへ逃げるが勝ち～』」が上映されています。津波が来たときの対策について、子ども達からの質問に河田センター長が一つひとつわかりやすく答えていくスタイルで紹介します。



河田センター長お館内授業「TSUNAMI(津波)」

阪神・淡路大震災10周年特別企画展スタート！



津波の音体験

●迫り来る津波の音体験

1983年の日本海中部地震における津波を撮影したビデオの音をモチーフに、迫りくる津波の音を再現。地震の音は、10年前の阪神・淡路大震災で被災された方の証言をもとに再現し、いずれもヘッドホンで聞くことができます。

●地震学習室

大型映像で地震のメカニズムを紹介するほか、約100年ごとに発生している東海・東南海・南海地震の発生状況から巨大地震の周期的な発生サイクルの仕組みを学ぶことができます。併せて、東海・東南海・南海地震は同時に発生することも想定され、その場合は今まで経験のない広域に渡る大きな被害が想定されることを紹介しています。

また、「活断層ジグソーマップ」「まちがわなないで震度とマグニチュード」など触って楽しみながら学ぶことができるハンズオン展示もあります。



ハンズオン展示

●あなたに役立つ公的支援

阪神・淡路大震災の住宅の被害状況や建築基準法の改正の経緯等から、自分の住まいの耐震性を問い直すとともに、被災者の生活再建・住宅再建を支援する取り組みとして「被災者生活再建支援法」や居住安定支援制度などの「公助」、地震保険などの「自助」に兵庫県が提唱している住宅再建共済制度といった「共助」を組み合わせた「三位一体」による「総合的国民安心システム」の概要を紹介しています。

また、災害時に必要となる飲料水、非常食、給水袋、懐中電灯、家具転倒防止用具等の防災用品なども展示しています。

●サバイバルゲーム

「命を守るミッション手帳」に従って、「地震発生あなたは何をする！」など地震発生直後から2分後、3分後、5分後、10分後の対処方法を二者択一のクイズ形式で、トライしてもらい、サバイバル度を計ります。

東海・東南海・南海地震等の巨大地震は今世紀前半にも発生するといわれています。ぜひ足を運んでいただき、防災意識をあらたにしてはいかがでしょうか。



防災・避難用品



サバイバルゲーム

2004年 第15回 ICAウィーン大会参加・発表

世界規模であらゆる国の記録遺産の保存、発展、利用の促進を目的とする国際的な機関・ICA（国際文書館評議会）の国際会議が、8月23日から29日にかけてオーストリアの首都ウィーンで開催されました。

1948年に設立されて以来4年ごとに開かれてきたこの世界大会に、センター資料室から矢守克也震災資料研究主幹、山村由華震災資料専門員が出席しました。同会で両氏は、「アーカイブズ・記憶・知識」というテーマのもと、世界各国から集まった資料の専門家たちに震災資料の収集経緯や保存・管理の方法、またそれらの資料を活用し、阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世に継承していく上で今後のセンターが果たすべき役割などについて発表しました。

そのなかで来年震災から10年を迎えるにあたって、これまで収集してきた資料をもとに計画されている「阪神・淡路大震災“わたしたちの復興プロジェクト”」について紹介し、会議に参加した各国の代表者の注目を集めました。

《矢守克也震災資料研究主幹のコメント》

ICAでの発表に対して、海外の防災研究、資料研究の専門家から多大の反響があった。

特に、所蔵する資料の多くが被災者から提供されたものである点、それらが展示を通して公開されるとともに、防災教育や防災研究の資料として活用されている点は、非常にユニークとの高い評価を受けた。資料室の活動にたいした手応えを感じる意義深い研究発表であった。



《山村由華震災資料専門員のコメント》

資料室から海外で発表するのは初めての経験でしたが、日本に民間から収集した震災資料を保管する機関があることに大変興味をもってもらうことができ、センター資料室の存在を国内だけでなく国外にアピールする有意義な機会になりました。今後は、今回の大会で得たネットワークを活かし、国内外に広く情報を発信することに努めていきます。

阪神・淡路大震災“わたしたちの復興”プロジェクト

震災10周年を契機として、これまでの復興に向けた歩みを市民一人ひとりが改めて振り返り、将来に向けて記憶にとどめ、これらの貴重な経験と教訓を共有するために、被災者の方々の震災前、震災直後、現在の自宅周辺の写真、エピソード等をインターネットを通じて募集します。応募された情報は、インターネット上の地図に記録し、公開されます。

応募方法：①自宅のパソコンから人と防災未来センターのホームページ（<http://www.dri.ne.jp/>）を通じて直接入力
②センター資料室の専用パソコンから入力
③郵便による受付も可

募集開始：12月初旬頃（開始時期についてはセンターのホームページをご覧ください。）

問い合わせ先：
センター資料室（078）262-5058

相次ぐ災害に調査チーム派遣

人と防災未来センターでは、6月以降全国で相次ぐ災害にそれぞれ調査チームを派遣し、被災地調査及び被災自治体との情報交換を行いました。

10月23日に発生した新潟県中越地震に関しては、24日専任研究員2名を現地に派遣し、支援等を検討するための情報収集を行ったのはじめ、継続的に専任研究員を派遣し、27日には河田センター長、深澤副センター長が新潟県災害対策本部で復旧・復興についての助言等を行いました。

その後も専任研究員を現地に派遣し、支援を行っています。



市長との意見交換

新潟・福島豪雨災害

7月12日夜から13日にかけて日本海から東北南部に停滞する梅雨前線の活動が活発化し、新潟・福島の両県で豪雨となり、新潟県の長岡地域、三条地域を中心に激しい雨となりました。新潟県栃尾市で13日の降水量が421ミリに達するなど、長岡地域、三条地域の一帯でこれまでの最大日降水量の記録を上回りました。人と防災未来センターでは、7月14日から16日にかけて研究員3名を含む職員4名を現地に派遣し、一部兵庫県と合同で被害状況の調査を行いました。見附市では市長や収入役とも意見交換を行い、東海豪雨における災害廃棄物処理の事例等について情報提供を行いました。

福井豪雨災害

活発な梅雨前線が北陸地方をゆっくり南下したのに伴い、7月18日朝から昼前にかけて福井県嶺北北部を中心に猛烈な雨が降り、美山町では総降水量が285ミリ、福井市で198ミリに達する雨が観測されました。これにより、福井県下で、死者3名、行方不明者2名、福井市を含む2市3町に災害救助法が適用される豪雨災害となりました。人と防災未来センターでは、7月21日に現地に研究員2名を含む職員3名を派遣し、被害状況の調査を行いました。

いずれの調査報告書もセンターホームページ
(<http://www.dri.ne.jp/html/res/rindex.html>)よりダウンロードできます。

近畿圏自治体との合同プロジェクトがスタート

21世紀前半に発生する東南海・南海地震のようなスーパー広域災害では、各地域の防災力の向上と効率的な地域間の広域連携の推進が不可欠です。「大都市大震災軽減化特別プロジェクト(大大特)研究成果普及事業」は、東南海・南海地震の防災対策推進地域である、近畿圏の都道府県・市の8自治体(大阪府、和歌山県、奈良県、兵庫県、三重県、大阪市、神戸市、京都市)とともに、広域連携を効果的に実現する手法の開発と自治体向け防災プログラムの開発を行う事業です。8月11日には、SWOT分析という手法を用いて、自治体の危機管理・防災対策に向けた外部環境情報(機会、脅威)、内部組織情報(強み、弱み)を明らかにし、東南海・南海地震に向けて自治体に取り組むべき戦略課題を分析するワークショップを開催しました。今後は、ワークショップで明らかになった戦略課題に取り組むための、研究会を開催していく予定です。本事業は、京都大学防災研究所から委託で平成16年度から平成18年度の3年間で実施される予定です。

センターの研修事業



センターでは、今年度も災害に関する実践的な人材養成の一環として、様々な研修を実施しています。今回は「ボランティアコーディネーターコース」の実施結果について紹介します。

日時 平成16年8月23日(月)～25日(水)

参加者 27名

内容 開講2年目となる平成16年度コースでは、昨年度同様、被災者(地)支援の前線となる「災害ボランティアセンター」の設置・運営、及びそこでのボランティアコーディネーションをメインテーマとしましたが、さらに「コミュニティにおける事前の減災対策」も重要課題として位置づけ、カリキュラムを編成しました。

8月
23日

センターの展示施設を使ったワークショップを行ったあと、神戸市内にあるボランティア活動が活発な地域を訪問してフィールドワークを行い、阪神・淡路大震災の発災直後の混乱した状況から復旧・復興にいたる一連の課題、とりわけコミュニティの崩壊と再構築について学びました。



センターの展示施設を使ったワークショップ

8月
24日

メインテーマである「災害ボランティアセンター」の設置・運営とそこでのボランティアコーディネーションについて学びました。まず、初めての経験が多かった阪神・淡路大震災から、組織体制を整え機能的に運営できるようになった現在までの経緯を概観し、さらに昨今の画一・一斉・大量といった組織化による弊害などの課題も鑑み、演習形式によるコーディネートの事例研究を組み込みながら、災害時のボランティアコーディネートのあり方について考えました。

8月
25日

もう一つの重点課題である「事前の減災活動」について、事例報告・集団討議を通じて、受講者自身が普段の生活の中で、被害を減らすためにどんな取り組みができるのか、を考えました。

参加者の評価

- ・研修に対する満足度の評価点数の平均点は94.6点であり、非常に高い評価を得た。
- ・カリキュラムがきっちりと組まれていて体系的だった。
- ・講師の方々が非常に熱心だった。
- ・参加型のワークショップ形式がふんだんにあり、一方通行になることなく、考えながら学ぶことができた。
- ・講師の方々、受講者とながら持てたことが良かった。
- ・カリキュラムにもう少し余裕があれば良かった。



災害対策専門研修を受講し、実際に災害(新潟・福島豪雨災害 平成16年7月)を経験された新潟県県民生活・環境部防災局危機管理防災課の危機管理専門員 間(あいだ)さんにお話を伺いました。

この春に防災担当部署に異動になってすぐの災害でしたので、どう動いていいのかわかりませんでした。しかし、研修に参加して防災の基礎知識を学んでいたため、全体の流れをつかむことができました。受講しておいてよかったと思います。研修は座学中心なので、経験を積んでいる方にはもう少し演習が多い方がいいかと思いますが、私のように基礎を学ぶ者にとってはありがたかったです。

貴重なご意見ありがとうございました。



「こころはどこにある？ 脳、そしてこころとからだの不思議」



7月21日から9月5日まで、ひと未来館で企画展「こころはどこにある？脳、そしてこころとからだの不思議」が開催されました。

自分自身のからだところについて、脳の働きとの関係をテーマに小さなこどもから大人までを対象に遊びながら学べる、ハンズオン・参加体験型の企画展で、第一部「脳のはたらき、こころのありか」では、生命活動の司令塔ともいわれている脳のことを理解しながらこころのありかを考えるものでした。パズル「さかさまの世界」や脳のおよその重さがわかる「脳重計」や知恵の輪コーナーなどに人気が集まっていました。



第二部「こころとからだのカンケイ」では、からだはこころの鏡。からだの変化とこころの状態の関係を考えながら、自分のこころと向きあってみるというものでした。「ドキドキ？聴診器で自分の心臓の音を聞いてみよう」「怒り&悲しみをシュレッターにかけてすっきりしよう」などの展示に興味を示す方が多かったようです。

「夏休み子ども防災クイズ2004」

7月27日から8月29日まで、防災未来館で「夏休み子ども防災クイズ2004」が開催されました。地震に対する備えや避難するときに注意することなどに関するクイズで、参加者にはセンターオリジナルポストカードがプレゼントされました。毎日、たくさんの子どもたちがクイズに熱心に取り組む姿が見られました。

8月12日と13日には神戸市中央消防署の協力を得て、水消火器による消火体験と、煙ドームを使って煙で視界が利かないところを歩く体験に多くの人々が参加しました。また、13日から14日までは地震体験車の試乗会を実施。震度7の揺れに驚く人が多く、スタッフの「揺れ始めたらテーブルの下に避難して頭を守ること」という注意を熱心に聞いていました。



観覧者 100万人達成!!!

平成16年9月3日、人と防災未来センターの観覧者が平成14年4月27日のオープン以来のべ100万人に達しました。100万人目の観覧者は千葉県在住の大学生、上田崇寛さん(18)でした。

河田センター長から花束と記念品の贈呈を受けた上田さんは、「東京で関東大震災と同じ時期に地震があり気になった。センターの事は友人から聞いていたので、これを機に行ってみようと思った。100万人目になって驚いたけどうれしい。」と感想を述べました。



センターの出版物のお知らせ

この度、当センターでは、(財)神戸市都市整備公社こうべまちづくりセンターと共同により『台湾社区総体営造の展開』、『台湾社区総体営造の軌跡』という台湾のまちづくりに関する書籍を発行いたしました。1999年に大きな地震が発生した台湾では、地域の復興にあたり「社区総体営造」というまちづくりの考え方が重視されました。「社区総体営造」とは、施設整備などハード面と人のつながりなどソフト面の両方を含めた考え方です。阪神・淡路大震災などを通して復興まちづくりのあり方に関する議論がなされていますが、台湾の「社区総体営造」は、わが国における復興まちづくりを考える上でも参考になると思います。

この2冊については、当センター2階の資料室でご覧いただけます。また詳細な内容等については、こうべまちづくりセンター(電話:078-361-4523)までお問い合わせください。



「友の会」会員募集

人と防災未来センター友の会は、センターの活動に協力し、積極的に利用して防災対策の大切さといのちの尊さを学習しようとする人々の親睦を深め、センターと連携しつつ、社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立されました。

どなたでも入会できますので、たくさんの方の入会をお待ちしています!

*** 10月以降に入会された場合、半額になります。**

会員特典

1. センターへ無料で入館できます。
2. センターの最新情報が手に入ります。
3. 友の会のイベントに参加できます。

年会費

個人会員 3,000円

法人会員 一口 50,000円

郵便振替: 00940-2-160211

**口座名: 阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター友の会**

MIRAI

[人と防災未来センターニュース] Vol.11

発行/阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

お問い合わせ先

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 〒651-0073
事務局/ TEL.(078)262-5060
観覧案内/ TEL.(078)262-5050
ホームページアドレス/ <http://www.dri.ne.jp/>

●開館時間 9:30~17:30(入館は16:30まで)
ただし、7~9月は9:30~18:00
(入館は17:00まで)
金・土曜日は19:00(入館は18:00まで)

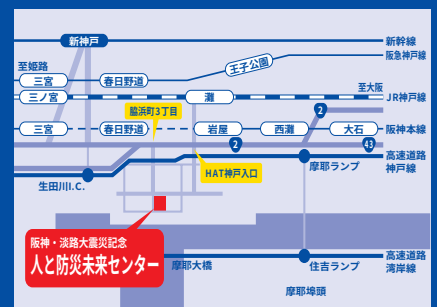
●休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
年末年始の12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク(4月28日~
5月5日)期間中は無休

●入館料金(団体は20名以上)

区 分	防災未来館		ひと未来館		両館とも	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体
大人	500円	400円	500円	400円	800円	640円
高校・大学生	400円	320円	400円	320円	640円	510円
小・中学生	250円	200円	250円	200円	400円	320円

※兵庫県の小・中学生はコロンカードを提示すれば無料。
障害をお持ちの方及び兵庫県内に住んで65歳以上の
方は上記の半額。障害者手帳又は年齢・住所のわかる
ものを提示ください。

交通マップ



- 交通 鉄道/阪神「岩屋駅」から徒歩約10分・
JR「灘駅」南口から徒歩約12分。
阪急「王子公園駅」西口から徒歩約20分。
バス/ JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」
から約15分。
神戸市営バス
三宮駅前から約1時間間隔で運転。
阪神電鉄バス
三宮駅前から約30分間隔で運転。
車 / 阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約8分、
阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、
阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分。

■駐車場 有料駐車場(普通車100台駐車可能)のほか
近隣にも有料駐車場があります。

■バス待機所

予約制/無料
観覧予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

ご意見・ご感想は事務局まで。

平成16年10月発行